

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4077300160
法人名	有限会社 ユリックス
事業所名	グループホーム ゆり苑
所在地	福岡県うきは市吉井町生葉705-1 (電話) 0943-75-9520

評価機関名	福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	H21年 6月 10日
評価確定日	H21年 7月 6日

【情報提供票より】 (平成21年 5月 20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 6月 26日
ユニット数	2 ユニット
利用定員数計	18 人
職員数	19 人
常勤	10人
非常勤	9人
常勤換算	14.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要 (平成21年 5月 20日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	6 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 83 歳	最低	69 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	坂本内科医院、田主丸中央病院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然の静けさとバス通りより少し入った所にある事業所は、落ち着いた平屋建てで、庭には可憐な草花や野菜が育ち、大らかに伸びた朝顔のグリーンカーテンに、安らぎや親しみがある。耳納連山を眺めての散歩は、利用者の楽しみの日課であり、心身機能の維持にも適している。ホールには利用者作品のバッチワークや布人形の貼り絵を展示し、飾られた紫陽花に季節感がある。レクリエーションの折々に、童謡歌を合唱するなど、生き生きとした生活感がある。利用者による「結の会」を月1回開催し利用者の「自己決定」の場を設け、一人ひとりの尊厳に寄り添う支援をし、本人・家族の信頼を得ている。経験豊富な管理者を中心に理念の実践に全職員で取り組んでおり、介護ケアの質の向上が更に期待出来る事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価の改善課題はなかったが、評価の意義と理解の活用について、更なる向上を目指す為の全職員の意識化と気付きの場として取り組んでいる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は全職員で意見を出し合い討議し、管理者と施設長で集約している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>定期的開催し、利用者の現状や今後の活動・研修計画、自己・外部評価の報告をしている。また家族会からの要望等も報告し意見を貰うなどサービスの向上に活かしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)</p> <p>月1回の事業所便りと共に職員の手書きの手紙や写真を渡し、暮らしぶりや健康状態を報告している。家族会の開催や意見箱の設置等家族からの意見や要望を聴くよう努めている。出された意見は適切に対応し運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>運営推進会議時に事業所便りを配布している。地域の人の事業所見学やボランティアを受け入れている。また、近隣の小・中学校と交流があり、運動会に見学参加をしている。地域の祭りや年2回の道路愛護清掃には、積極的に参加し地元との交流に努めている。</p>

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域と関わりながら暮らし続けることを支援していく」という地域密着型の視点が加わった事業所独自の理念を全職員で作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、掲示された理念に毎日目を通し、ミーティング時や勉強会時に話し合い理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議時に事業所便りを配布している。地域の人の事業所見学やボランティアを受け入れている。また、近隣の小・中学校と交流があり、運動会に見学参加をしている。地域の祭りや年2回の道路愛護清掃には、積極的に参加し地元との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で意見を出し合い討議し、管理者と施設長で集約している。前回の外部評価では要改善の課題は無かったが、更なる向上を目指す為の気づきの場として評価の活用を活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に関催し、利用者の現状や、今後の予定、研修計画、自己・外部評価の報告を行っている。家族会から出された要望についてアドバイスを貰うなど、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>毎月の事業所便りを持参したり、提出物を届ける等行政との行き来の機会をつくり、運営や利用者の状況を相談しながら行政と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
7	10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>一部の職員が研修を受け、勉強会やカンファレンス時に、全職員に伝達研修をしている。パンフレット、研修記録等が整備されている。家族には入居時に説明している。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月1回発行の事業所便りと共に、担当職員の手書きの手紙や行事のスナップ写真を添えて手渡しもしくは郵送している。家族来訪時には、暮らしぶりや健康状態を詳細に報告している。金銭管理は、毎月の支払い時に出納簿を明示し渡している。確認のサイン・押印がある。</p>		
9	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>第三者相談窓口は利用開始時に説明し玄関に明示している。また意見箱を設置し、家族の意見や要望など聴くよう声かけをしている。家族会から出された意見は推進会議に図り意見等を反映させている。</p>		
10	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者は職員から個別に希望を聴き相談にのり職員の異動や、離職を最小限に抑える工夫をしている。やむを得ず代わる場合の引継ぎ期間は十分に取し、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>採用にあたっては、公平性を持ち性別や年齢などを理由に排除しない。配置・昇進・教育・定年などにおいても差別は無く、誰もが安心して働きながら、社会参加や自己表現が出来る職場環境作りを目指している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>運営者や管理者は人権教育の重要性を認識している。外部研修を受けた職員が伝達研修を行い、また資料や書籍を用いてカンファレンスや勉強会で学習し、全職員で理解し啓発活動に取り組んでいる。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は日常的に職員に学ぶ事を推進している。希望する研修を全職員が受講できるよう調整し、働きながらトレーニングしていく事を進めている。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県や地区の同業者ネットワークに加入し、管理者と職員は、意見交換を行い情報を得ている。また近隣の事業所と見学や事例発表会・相談などで交流し、サービスの質の向上に努めている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に事業所の見学やショートステイを行っている。職員は自宅及び病院を訪問する等馴染みの関係を築くよう家族と相談しながら工夫している。即利用の場合は家族に来訪してもらう等協力を得ている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<input type="checkbox"/> 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	花の名前や活け方、野菜の皮むき、干し柿作り等、職員は利用者の得意分野から学び、一緒に過ごす仲間として共感しあっている。夜勤時には労って貰うなど支えあう関係を築いている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<input type="checkbox"/> 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の関わりの中で、利用者の行動、表情の動きから、思いや意向を汲み取るように努めている。意思疎通が困難な利用者には家族から情報を得るようにし本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<input type="checkbox"/> チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	画一的な計画ではなく、本人・家族や職員の気付きや意見、アイデアを取り入れ、本人本位の具体的な介護計画を作成している。本人及び家族の署名・押印がある。		
19	39	<input type="checkbox"/> 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回介護計画を見直している。また利用者の状態変化や状況に応じて随時見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	<input type="checkbox"/> 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況に応じて、通院や送迎など必要な支援は柔軟に対応している。利用者が入院した際は見舞いに行き、事業所・家族・医療機関と連絡、連携を図り、早期退院に取り組んでいる。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が希望するかかりつけ医での受診を支援している。通院や情報の伝達などは家族と話し合い合意している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方についての事業所の対応指針があり、入居時や折に触れて家族へ説明している。利用者・家族の意向を大切にしながら、かかりつけ医・全職員で合意を図り方針を共有している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	内部研修やミーティング等でプライバシー確保の徹底や個人情報の取り扱いについて、資料を用いて職員の意識向上を図っている。日々の関わりの中で言葉かけ、トイレ誘導などさり気なく対応している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の馴染んだ1日の過ごし方を把握し、一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時の気持ちを大切に、買い物や散歩・新聞を読むなど希望にそって柔軟に対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを取り入れたメニューを、旬の食材で、利用者と職員と一緒に準備し、同じテーブルで同じものを食べている。トロミ食の食事介助もさり気なく行ない、家庭的な雰囲気である。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>利用者の意向・希望に合わせて毎日の入浴を支援している。入浴拒否の場合は、人を代えての声かけや、時間を代えてタイミングを図るなど、チームプレーで入浴を楽しめるよう支援している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>職員は利用者の出来る事を把握しており、食事の準備・高菜漬け・梅干し作り・畑仕事・活け花等、一人ひとりの楽しみごとや張り合いや役割を発揮する場面作りを支援している。</p>		
28	63	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>天気や体調、利用者の希望に応じて、毎日の散歩、毎週のドライブや買い物、6ヶ月に1回の外食に出かけている。また、近隣の花見や演芸観賞等日常的に出かけるよう支援している。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>職員は鍵をかけることの弊害を知っており、日中、居室や玄関等は施錠していない。利用者の外出傾向を把握しており見守りの連携ができています。また、近隣へ声かけをお願いしている。</p>		
30	73	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>マニュアルを整備している。年2回消防署の協力を得て避難訓練を行ない、避難経路・連絡法・救急法を確認している。食糧や飲料水、備品を準備している。地域住民への参加協力を行ったが参加には至っていない。再度声かけを行う予定である。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量及び水分摂取量の記録が全利用者分ある。献立は、利用者の嗜好や栄養バランスを考慮し管理栄養士が献立を作成している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には利用者手作りのパッチワークや季節の花が飾られ、会話を楽しめるようソファやテーブルが配置されている。1段高めの畳室には、テレビ・小引き出し・整理箱があり生活感がある。カーテン等で光の強さに配慮し居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は和・洋風と自由に選択出来る。布団・ベッド・テレビ・整理ダンス等使い慣れた物を持ち込んでいる。また家族写真を飾ったり本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		

※ は、重点項目。